



ぶどう



キャベツ



はくさい



かぼちゃ



さといも



トマト



JA 岡山はなやか瀬戸内店

## 1.2.6 主要工事計画

頭首工 2箇所（新田原井堰、坂根合同堰）  
揚水機場 4箇所（浮田玉井揚水機場、太伯朝日揚水機場、邑久牛窓揚水機場、弁天揚水機場）  
用水路 7.9km  
水管理施設 一式

### ○施設の現状と整備内容

施設名	現状（平成24年度現在）	整備内容（事業計画）
新田原井堰	・本線水門、取水樋門の腐食進行 ・管理制御システムに不具合発生	・改修 （堰管理システム、ゲート設備、ポンプ設備、電気設備等）
坂根合同堰 （取水口）	・取水樋門、制水樋門の腐食進行	・改修 （取水及び制水ゲート設備）
揚水機場	・揚水ポンプの機能低下 ・電気設備の耐用年数超過	・改修 （揚水ポンプ設備、電気設備等）
用水路	・一部区間で不等沈下が発生 ・支線用水路への分水操作が手動	・改修 （開水路、制水及び分水ゲート設備、除塵機等）
水管理システム	・表示不具合 ・機器類の故障	・改修

## 1.2.7 工期

平成25年度～令和2年度（変更：令和7年度予定）

## 1.2.8 総事業費

総事業費 9,500百万円

（参考）令和4年度時点

総事業費 10,400百万円

## 1.2.9 予定負担区分

国庫負担	県負担	市町負担	農家負担
66.67%	17.00%	16.33%	0

## 1.2.10 関連事業

農業競争力強化基盤整備事業（水利施設整備事業）（基幹水利施設保全型）

## 2. 事業の進捗状況

### 2.1 主要工事の進捗状況

令和4年度までは、頭首工、揚水機場、用水路、水管理施設の工事を実施した。

令和5年度は引続き、頭首工、揚水機場、用水路の工事に着手する。

工種	事業量（計画）	令和4年度まで	進捗率 （事業費ベース）
頭首工	2箇所	1箇所	57%
揚水機場	4箇所	4箇所	92%
用水路	7.9km	1式	65%
水管理施設	1式	1式	100%

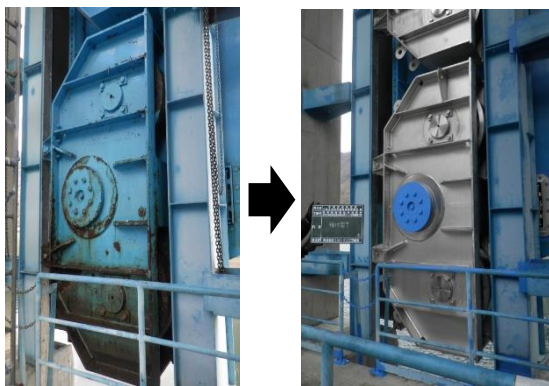
注：吉井川二期地区の令和4年度までの進捗率（事業費ベース）

主要施設の具体的な進捗状況を以下に示す。

#### 2.1.1 新田原井堰

新田原井堰は、事業着手間もない平成26年度から左右岸の調整ゲート2門、平成28年度からは中央部の洪水ゲート3門それぞれのローラーの分解整備と開閉装置の更新に着手し、平成29年度までに全5門の整備を完了した。また、平成26年度には右岸取水ゲートを、更に令和3年度から右岸に併設されたポンプ設備3台（田原用水2台、和気用水1台）の分解整備や電気設備の更新を行っている。

今後は、左岸取水ゲートの整備等を行う予定としている。



ロッカビーム整備前後



たわらようすい  
田原用水1号ポンプ（整備後）



### 2.1.2 坂根合同堰

坂根合同堰は、令和 5 年度から左右岸の取水ゲート及び右岸制水ゲート全 3 門のローラーの分解整備と開閉装置の更新等を順次行う予定としている。



おおよすい  
左岸取水ゲート（大用水）



くらすがわようすい  
右岸取水ゲート（倉安川用水）



右岸制水ゲート

### 2.1.3 揚水機場

揚水機場 4 箇所は、平成 29 年度から令和 3 年度にかけて、ポンプ設備の分解整備や電気設備の更新を完了している。今後は、建屋の補修等を行う予定としている。



うきたたまいようすいきじょう  
浮田玉井揚水機場（整備後）



おくうしまどようすいきじょう  
邑久牛窓揚水機場（整備後）

### 2.1.4 用水路

用水路 6 路線は、平成 26 年度から分水・制水・放水の各ゲート設備や除塵設備の補修・更新を順次行ってきており、65%の整備を完了している。今後は、残りのゲート設備等とともに、開水路の補強・補修、畑かん専用水路のバルブ等の更新整備を行う予定としている。



くらすてんとうげき つのやまぶんすいひもん  
分水ゲート整備（倉安転倒堰・角山分水樋門）



こうさがわ  
幸崎川サイホン除塵機



よしはらなかせいすいひもん  
制水ゲート整備（吉原中制水樋門）



はしりあがりてんとうぜき  
転倒ゲート整備（走上転倒堰）

## 2.1.5 水管理施設

水管理施設は、平成 26 年度から新田原井堰管理制御システム、平成 30 年度からは用水管理システム全体（農業用水管理所及び子局 32 箇所、孫局 3 局）と関連する電気設備をそれぞれ全面改修している。



新田原井堰管理制御システム（新田原井堰）



農業用水管理制御システム（農業用水管理所）

## 2.2 総事業費の執行状況

（単位：百万円）

区 分	総事業費	令和 4 年度まで		R 5 年度以降 残事業費	工期
		事業費	進捗率		
吉井川（一期）	3,500	2,808	(80.2%)	692	H25～H30 (6 年)
吉井川（二期）	6,900	4,819	69.8%	2,081	H29～R 7 (9 年)
全 体	10,400	7,627	73.3%	2,773	H25～R 7 (13 年)

### 2.3 事業概要図

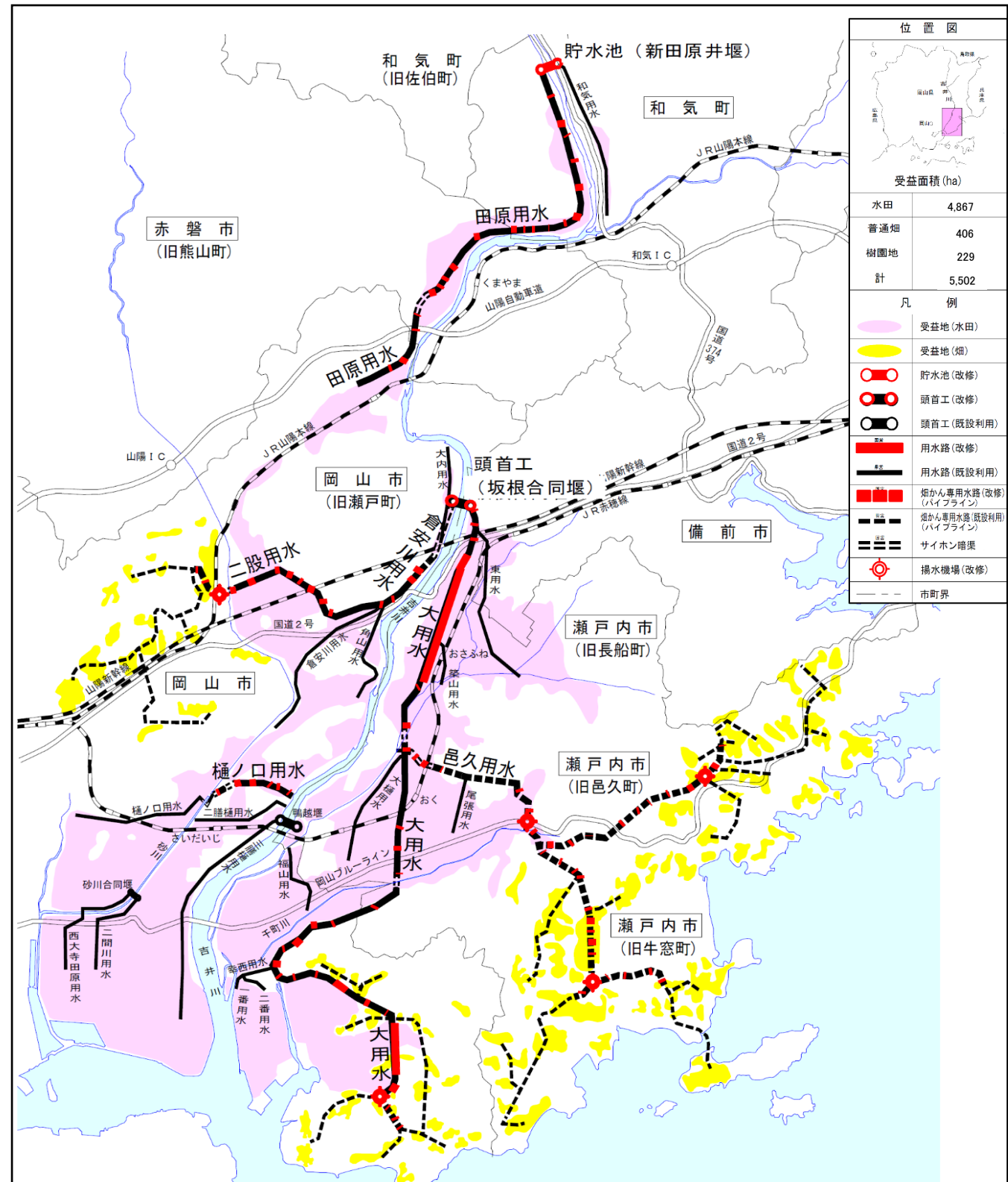


図-2.1 国営吉井川地区かんがい排水事業概要図

### 3. 関連事業の進捗状況

#### 3.1 採択状況

事業名	事業主体	受益面積 (ha)	事業内容
農業水路等長寿命化・防災減災事業	岡山県	79	機能保全計画 一式 揚水機、畑かん施設補修 一式

資料：岡山県より聞き取り

#### 3.2 総事業費ベースの進捗状況

項目 事業名	事業費 (百万円)	令和4年度まで (百万円)	令和4年度まで 進捗率 (事業費ベース)	令和5年度 以降 (百万円)
農業水路等長寿命化・ 防災減災事業 <sup>(注)</sup>	360	159	44%	201

資料：岡山県より聞き取り

注：令和5年度から畑作等促進整備事業へ乗換え

#### 3.3 営農状況

##### 3.3.1 主な推奨作物

各市町における産地戦略作物は以下のとおりである。

市町名	産地戦略作物
岡山市	はくさい、キャベツ、レタス、たまねぎ、ぶどう、もも、かき、なし
備前市	ぶどう、いちじく、みかん、ねぎ、なす、きゅうり、スナックエンドウ
瀬戸内市	麦、大豆、キャベツ、はくさい、かぼちゃ、トマト
赤磐市	麦、大豆、キャベツ、もも、ぶどう
和気郡和気町	ねぎ、なす、ぶどう、スナックエンドウ

資料：各市町水田収益力強化ビジョン

関連JAにおける振興作物（広域重点振興品目、地域振興品目等）は以下のとおりである。

JA名	振興作物	関係市町
JA岡山	夏秋なす、はくさい、キャベツ、レタス、たまねぎ、ぶどう、もも	岡山市、瀬戸内市
JA晴れの国岡山 (岡山東統括本部)	小豆、きゅうり、黄ニラ、なす、スナックエンドウ、白ねぎ、エンダイブ、キャベツ、ぶどう、もも、かき、いちご、いちじく、みかん、りんどう	備前市、赤磐市、和気郡和気町

資料：JA岡山営農振興計画、JA晴れの国岡山農業振興計画



### 3.3.2 先進的事例等

#### 1. JA 岡山 牛窓地区「冬黄白菜」「牛窓甘藍」(吉井川地区：岡山県)

牛窓地区は古くから、野菜栽培を中心とした農業が行われている。かつては河川がないことから用水に不自由していたが、事業により畑地かんがい施設整備が進められ、安定生産や品質向上が図られた。牛窓は重量野菜の国の指定産地になっており、はくさいやキャベツは県内一の生産量を誇る。

JA 岡山牛窓白菜部会が栽培するはくさいは牛窓ブランド「冬黄白菜」として岡山だけでなく関西・広島方面へも出荷している。JA 岡山牛窓キャベツ部会が栽培するキャベツは「牛窓甘藍」として岡山・広島へ出荷される。1 月から 2 月にかけての冷え込みによって色づきがよくなり、甘味も増し、特に生食に向いているとされる。冬黄白菜や牛窓甘藍は、出荷の際に専用箱を使って牛窓ブランドを PR し、市場からも高い評価を得ている。

そのほか、瀬戸内市牛窓・邑久、裳掛地区の JA せとうちレモン部会は瀬戸内市や JA 全農おかやま、JA 岡山の支援を受けて、牛窓地区を中心にレモンの一大産地化に向けて活動している。

耕地面積           ： 田：－、畑：271ha  
主要作物           ： はくさい、キャベツ



はくさいの栽培状況



キャベツの栽培状況

資料：日本農業新聞（令和 5 年 1 月 21 日）記事、JA 岡山提供資料



## 2. JA 岡山 東区西大寺地区いちご（吉井川地区：岡山県）

JA 岡山西大寺いちご部会は岡山県内でもいちごのトップ産地である西大寺地区をエリアとし、JA を通じた出荷量が県産いちごの約 5 割に上る。本地区は、干拓地に広がり、日照量が多く水はけの良い砂地という土地柄であり、いちご栽培は大正時代に始まったといわれる。いちごは品種の世代交代がめまぐるしく、品種の世代が変われば電照時間やハウスの室温、施肥量など栽培管理の仕方も変わる。同部会では、蓄積した栽培技術を基に、作りやすさや消費者の嗜好等も勘案して新品種を導入している。

JA 岡山西大寺いちご部会では、約 1.6ha の耕地で、「さがほのか」「さちのか」「おい C ベリー」などのいちごを年間約 40 トン出荷し、岡山や東京の市場で広く流通している。

2019 年からは 1 粒 18 グラム以上などの出荷基準を満たす「おい C ベリー」を「晴苺」として首都圏に売り込む県の戦略に呼応している。晴苺はギフト向け平均単価 1 キロ 3,500 円程度と、東京・大田市場でも有数の高単価商品である。同部会の晴苺の出荷量は県全体のおよそ半分を占める。

2000 年代以降、葉に被害を与える害虫・ハダニの防除に天敵を利用するようになり、食・安全への関心が高まる中、農薬使用量の低減も図っている。

また、岡山フルーツ農園では、苺の育苗受託事業を強化し、苗場を従来の 1.4 倍に拡大、育苗用ハウス 1 棟を新設している。露地のみだった育苗をハウス内で行うことで、高品質な苗を安定的に生産する体制を整えるとともに、重労働となる夏場の育苗を請け負うことで、提携農家である西大寺地区内のいちご農家の規模拡大、新規就農を後押ししている。



西大寺いちご部会栽培のいちご



品種：おい C ベリー

資料：山陽新聞（令和 5 年 2 月 2 日、令和 5 年 5 月 11 日）記事、「市民のひろばおかやま」2022 年 3 月号

### 3. 岡山フルーツ農園 東区上道北方 他 ぶどう（吉井川地区：岡山県）

岡山フルーツ農園は、野菜、果物等の地元産品の販売と季節によって体験できるフルーツ狩りを開催している観光農園である。

果樹栽培において、岡山フルーツ農園は、いちごを年間約 15 トン、ぶどうを年間約 10 トン栽培している。ぶどうにおいては、面積拡大を進めており、近年では、新たに岡山市東区上道地区の耕作放棄地 (0.5ha) を借り受けている。本地区に定植した苗は、2025 年にも収穫予定である。

本園地拡大における事業費は約 2,000 万円で、一部に県の園芸総合対策事業補助金等を活用している。

岡山フルーツ農園のぶどう園地は、単独経営体としては県内最大級である。独自の省力化手法を取り入れて生産性を高め、広い園地での栽培を可能としている。園地を立地条件等に応じ、贈答用、観光農園、家庭消費用、加工向けにゾーン分けし、例えば、房の形を美しくするための「花切り」を贈答用は細かく行うが、加工向けは行わないなど、目的に応じて作業量を調整している。

岡山フルーツ農園では現在、岡山市東区草ヶ部を中心に約 3.5ha でピオーネやシャインマスカット、オーロラブラック等を生産し、直売や加工、観光農園の運営を手がけている。

直売所は、地域農業の活性化と農業者の所得向上を目的として、農産物直売所「とれたて岡山産直マルシェ in さいだいじ」を開設し、現在、自社生産物とあわせ、約 100 戸の農家の野菜や果物、地元産品等を販売している。

耕地面積：ぶどう 6ha、いちご 1ha、野菜 1ha



岡山フルーツ農園



とれたて岡山産直マルシェ in さいだいじ

資料：山陽新聞（令和 5 年 2 月 9 日）記事、岡山フルーツ農園 WEB サイト、岡山観光 WEB、  
中国四国農政局 HP